



# 同好会ひろば

第281号  
R2. 6. 12  
No.1

## 共に学び、語り合う同好会活動

### ～時代の変化に対応した社会科教師を目指して～

新型コロナウイルス感染症の席卷は、政治・経済活動や生活様式に計り知れない影響を与え、世界の様相は一変しました。環境問題や防災、少子高齢化など複雑かつ解決困難な課題も山積したままです。このような厳しい状況の中、学校現場では、働き方改革や個別最適化された学びなど今日的な教育課題への対応も迫られています。私たちは、予測困難な変化に対応していくために、いろいろな立場の人々と共に学び、協働して課題を解決していく知恵と工夫が求められています。

小学校では今年度から、中学校では令和3年度から新学習指導要領が全面実施されます。そして令和4年度には全中社研名古屋大会が行われます。小学校や中学校という異なる校種、経験年数などを越えて、全中社研名古屋大会のテーマである「人間の生き方を問い続ける」姿について語り合い、理解を深めていくことは、名古屋大会の成功だけでなく、新しい時代を築く子どもを育てるために重要であると考えます。

時代の変化に対応した社会科教師を目指して、これまで多くの人と関わり合いながら互いに授業力を高めてきた社会科同好会のよさを大切に、「共に学び、語り合う同好会活動」を進めていきたいと考えます。

「共に学び、語り合う同好会活動」を実現するために、「共に学ぶ場をつくる工夫」と「仲間の輪を広げる工夫」を大切にしたいと考えます。全体会や小・中学校部会などにおいて、会員同士が協議をするテーマや内容を大切にします。若手会員や中堅会員、ベテラン会員が共に学び、語り合うことが、社会科教育や指導方法などに対する見識を深めたり、新たなアイデアを生み出したりして、社会科の授業力の向上につながると考えます。また、仲間の輪を広げるために、ステップアップ研修全体会や授業づくり講座などを、互いにテーマをもって実践を報告し合ったり、悩みを共有・相談したりする機会になるように工夫します。同世代のつながりを深めたり、指導者との縦のつながりを強くしたりして、仲間の輪を広げていきたいと考えます。

詳細は、5月の発送でお配りいたしました「活動計画基本案」に記してあります。ご一読いただき、今年度の同好会活動にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

#### 【第281号 紙面】

「共に学び、語り合う同好会活動」を目指して	(p1・2)
名古屋市社会科同好会会長挨拶	(p3)
名古屋市社会科研究会委員長挨拶	(p3)
子ども輝く社会科授業	(p4)
今後の予定	(p4)

## 研究活動

今年度は、全中社研名古屋大会を見据え、現代社会が抱える今日的な課題に対して、社会の一員としての自覚をもったり、今後の社会の在り方に関心を持ち、その形成に携わろうとしたりする子どもの姿を目指して、研究活動に取り組んでいきたいと考えています。また、小学校部会においては、中学校との連携を図るために、学年ではなく分野ごとに推進部会を設けます。

### ～小学校部会～

分野	地理的環境と 人々の生活	歴史と人々の生活	現代社会の仕組みや 働きと人々の生活
部長	永井亮(田代小)	児玉良太(戸笠小)	後藤俊輔(金城小)
副部長	後藤 康宏(菊住小)	山口喬史(如意小)	下村芳敬(藤が丘小)
推進部員	浅井義人(穂波小) 伊藤淳(小碓小) 勝田洋光(北一社小)	浦野光(大坪小) 市江寿朗(正保小) 室田禎貴(井戸田小)	本間英明(戸笠小) 掛川尚哉(大磯小) 永瀬智仁(天子田小) 岡田健吾(楠小)
担当事務局員	相澤慶(御器所小) 舘裕介(ほのか小)	石垣成一(陽明小) 石原純貴(八事小)	小池良亮(緑小) 森山勇二(大宝小)

### ～中学校部会～

分野	地理的分野	歴史的分野	公民的分野
部長	久々野将広(志段味中)	立野淳一(南陽東中)	加藤大知(南陽中)
次長	早川若仁(伊勢山中)	竹村詩子(猪子石中)	森本敬憲(城山中)
推進部員	倉藺友輔(富士中) 大塚基央(伊勢山中) 伊藤慎二(神丘中) 野口哲平(志段味中) 山本亮介(富士中) 服部樹(日比野中) 原田裕介(植田中) 石井剛(港南中) 澤田健佑(南光中) 堀井大揮(御幸山中) 安福洋可(城山中)	加藤優太(沢上中) 長谷川裕記(宝神中) 児玉和優(宮中) 杉本春菜(宝神中) 稲垣芳章(若葉中) 安福洋可(城山中) 林明日香(長良中) 見田篤紀(一色中) 馬野雄介(菊井中) 板倉夏樹(供米田中) 羽田真里(扇台中)	塚田一生(明豊中) 瀨瀬直樹(高針台中) 杉本大幸(振甫中) 七里光平(城山中) 杉山陽(南陽中) 佐藤航(守山東中) 服部和也(神の倉中) 福西義朗(桜丘中) 赤石怜士(若葉中) 葉栗宏太(笹島中)
担当事務局員	川崎晃司(御田中)	矢吹隆(沢上中)	西脇佑(丸の内中)

## 研修活動

授業づくり講座や、ステップアップ研修全体会など、参加者が学んだことを明日からの授業に生かし、社会科の授業力を高めることができるように日程や内容、方法、時間など、同好会会員のニーズをつかんで、研修活動に取り組んでいきたいと考えています。

---

## 名古屋市社会科同好会会長挨拶

### 吹上小学校 那須 義高 『記録と記憶にとどめて』

---

この数か月、初めて体験する異常事態の連続で、不安や恐怖、無力感に打ちのめされています。世界的な感染を経て、グローバルな世界が転換する、政治・経済・文化・教育など様々な活動の有り様や価値観が変貌する、という意見があります。

教育においても、「対話」「協働」「ふれあい」など、今まで積極的に推進し、大切にしてきた活動の在り方が問われ、戸惑うばかりです。世界中が同じ状況に置かれている中、「足下で今自分ができることをやるしかない」「知恵を絞るしかない」という思いを強くします。

社会科教師の一人として何ができるのか。例えば、この難局をリアルタイムで生きる一人として、映像・データ・生の声など、切実な記録を残すことができます。人類の歴史は、感染症との闘いの連続でした。天然痘・ペスト・コレラ・インフルエンザ…、歴史の様々な局面で、先人はその闘いに翻弄され、乗り越えてきました。その最も新しい闘いを実践している一教育者として、身の回りで起きている出来事を記録にとどめ、教材化し、深く記憶に刻んで、将来も繰り返されるであろう感染症との闘いに立ち向かうための学習を実現させたいと思います。今こそ、これまで培ってきた名古屋市社会科同好会の底力を示すときです。

---

## 名古屋市社会科研究会委員長挨拶

### 猪高小学校 植村 宏明 『初心忘るべからず』

---

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で4月全体会、5月の小中部会が中止になり、研究会の活動も自粛させていただいておりました。6月から少しずつではありますが活動を再開できることをうれしく思っています。

5月、在宅勤務になり、ふと恩師の「時間はだれにでも平等にある」という言葉を思い出しました。私が教師になろうと思ったのもこの恩師がきっかけで、自分の時間を子どもたちのために使おうと考えたのです。今回、臨時休業中の学習プリントづくりに手を挙げたのも、先生方のためということもありますが、先に述べたことが根底にあるからです。また、「一歩先をいきなさい」と言われていたのも思い出されます。私は、「一歩は大変なので、半歩でよい。半歩前を進んでいれば、背中は見え、道も開ける。」そう思っています。教師はあこがれの存在でなければならないと思うのです。

「初心忘るべからず」世阿弥の言葉ですが、初めの気持ちを忘れないという意味ではないようです。働き方改革も叫ばれている中、むだを省き、時間を子どもたちのためにどのように使うとよいのでしょうか。家族、健康を大切に、新型コロナウイルスに打ち勝ち、共に学び合っていきましょう。



# 子ども輝く社会科授業

魅力あふれる教材を開発し、子どもが輝く社会科授業。

そのような授業を日々積み重ねておられる会員の先生方の実践を紹介します。



## 地域への愛着をもつ児童が育つ教材開発

滝川小学校 石川 智美

江戸時代初期、大規模な治水土木工事によって開発された熱田新田。作業の無事を祈り、33か所に区割した新田を「番割」と呼び、観音堂をまつた。その名残は、現在も地名に残されている。現在も残る昔のものを取り上げながら学習を進めたり、体験活動を取り入れたりすることで、「歴史を大切にしたい町にしたい」と、先人の偉大さを実感し、地域社会への愛着をもつ子どもが育つのではないかと考えた。

単元の導入で、白鳥庭園から中川運河までの動画や写真を提示した。子どもたちは、〇番という地名が、国道1号沿いにきれいに並んでいることに気付いた。さらに、古地図に江戸時代初期の海岸線を示し、学区で発掘した貝殻を提示すると、かつて、この地が海の中であったことも理解することができた。その後、遠浅の海に見立てた花壇の干拓体験を行い、難しい工事を手作業で進めた先人の偉大さを実感するとともに、運河の開通による地域の発展を捉えた。「400年も前のことが今でも残っているなんてすごい」「この町を大切にしていきたい」と単元を振り返った子どもたち。主体的に学習を進め、地域への愛着をもつことができた。

## 郷土を愛し、よりよくしたいと願う生徒が育つ教材開発

宮中学校 児玉 和優

「なんでこんなに人が増えるの?」「(渋滞ばかりで)もう大高に住みたくない」と会話する生徒の声が聞こえてきた。「大高」には多くの人々が住みたくする魅力があるため人口増加が著しい。しかし、生徒たちはそのことに気付いてないのではないかと。そこで、タイトルのとおり教材開発・実践を進めた。

まず、導入では、人口推移のグラフから生まれた疑問を共有し、「なぜ、多くの人が大高に住んでいるのだろうか?」という追究課題を設定した。次に、単元「天下統一の歩み」において『ナゴヤ歴史探検』を活用し、大高周辺の地域の歴史的な出来事や魅力を調べた。そして、単元「身近な地域調査」では、各自が課題に対する仮説・テーマを立て、夏休みを利用して調査活動を行った。また、単元「中国・四国地方」「中部地方」では、過疎・過密や産業などの視点から人口が増加する地域の共通点を考え、大高が人口増加する要因と関連付けたことで魅力を捉えることができた。さらに、「大高に人が集まり続けるために必要なこと」をテーマに討論し、地域住民が実際にできることを『大高歴史の会』の方と考えた。最後に、学習をもとに地域住民ができる大高をよりよくするプロジェクトを一人一人が提案した。この実践後「大高歴史の会と SNS でもっと大高の魅力を発信したいです」といった声上がるなど、生徒は「大高」をさらに好きになることができた。

## ～今後の予定～

7月27日(月)	18:30～	小学校部会(ウィルあいち)	※ 小・中部会は、9月7日(月)も
7月29日(水)	18:30～	中学校部会(中小企業振興会館)	予定しております。(教育館)
9月15日(火)	19:00～	授業づくり講座、ステップアップ研修全体会(共に教育館)	